



日本大学大学院

商学研究科 会計学専攻

会計学専攻で研究する意義

複雑化するビジネスにおいて会計研究が必要とされている。

現代のビジネスの世界は、複雑化しています。会計は、この複雑化するビジネスや非営利組織の動きを固有の方法で可視化するとともに、利害調整、資源配分および意思決定等に役立つことで現代社会において重要な役割を担っています。また今日では、SDGs（例えば、目標8「働きがいも経済成長も」の実現等）への貢献も会計の新たな役割として期待されています。

そのため、会計制度を中心にした財務会計、経営戦略と深くかかわる管理会計に加えて、原価計算、監査、税務会計、国際会計、環境会計や財務諸表分析等の高度な能力を有する人材が現代社会において求められています。さらに、これらの会計の領域や論点を商学・経営学専攻の関連科目（国際経営、経営戦略、ファイナンス等）と合わせて体系的に研究することもできます。

会計学専攻では、講義・演習でのディスカッション等を通じて、研究指導することで社会に求められる高度な人材（研究者や会計専門職等）を輩出しています。

会計は経営の羅針盤、会計手法の理解が合理的な意思決定を導く。

国内外のライバル企業との熾烈な競争に晒されている企業は、ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮しながらも、利益獲得のためにコスト削減に取り組みます。コスト削減のためには、原価計算・原価管理（活動基準原価計算、スループット会計等）、戦略的業績評価システム（バランスト・スコアカード等）を知る必要があります。財務諸表で開示される利益が測定される仕組みを理解し、財務諸表分析の手法を身に着けておくことも重要です。

数百の名言を残した京セラの創業者 故稲盛和夫氏は「会計がわからなければ真の経営者になれない」と述べました。SONYの創業者 盛田昭夫氏も「経理数字は会社内の仕事を計るものさしである」と述べています。会計を知らないで、経営者、管理者の役割を果たせません。

会計はビジネスのグローバルな共通言語、世界で求められる重要なツール

世界には米国会計基準（US GAAP）、日本の企業会計基準、中国会計基準（会計準則）等の国内基準が存在します。会計基準が国単位で異なると、資金調達、関係会社管理等に支障をきたします。そこで、国際会計基準（IFRS）を中心に会計基準の国際的コンバージェンス（統一化・共通化）が進められています。IFRS、日米中等の会計基準に精通し、管理会計システムを活用できれば、世界に羽ばたく素地が育まれます。



商学研究科 会計学専攻

会計学専攻の特徴

高い倫理観をもつ広い意味での会計専門家（公認会計士、税理士、経理担当者、大学・高等学校の教員等）、会計知識を有する経営者・管理者を輩出しています。特に会計学専攻は、職業会計人だけでなく、一貫して大学教員（研究者）を輩出しているという特徴があります。

財務会計、管理会計、原価計算、監査、税務会計等の会計的専攻の科目を履修し、会計理論・実務について研究します。また経営学・商学専攻の隣接科目（経営学、ファイナンス）を履修し、多角的な研究も可能です。

大学院生の将来の目標に応じた研究指導の提供

将来、大学・高校教員、シンクタンクの研究員になることを希望する人、民間企業、非営利組織、自治体等で経理業務に携わりたい人、公認会計士・税理士等の試験合格を目指す人等大学院生の目標は多様です。指導教授が、大学院生の要望・将来の目標をきいて、十分に話し合い、限られた時間の中で実現可能な方針を検討し、丁寧に修士論文・博士論文に関して研究指導します。

豊富な会計学系列科目の開講

博士前期課程入学者向けに財務会計論、管理会計論、税務会計論、監査論、財務諸表分析論等33の授業科目が設定されています。

充実した専任教員数

大学院会計専攻には10名の専任教員が在籍しています。希望する研究テーマについて見識のある教員が指導にあたります。中国語が話せる教員も在籍しており、留学生との意思疎通も円滑に行えます。

会計知識の実践的な活用

実務経験をもつ教員（公認会計士、経営コンサルタント）も在籍しており、学術的・実務的見地から指導を受けられます。経営学、経営戦略、ファイナンス等と会計知識を関連付けて、企業、非営利組織で活用できる実践的な会計学を研究できます。

様々な奨学金・授業料免除制度や研究支援施設で研究を支援

会計学専攻の大学院生は、今日まで古田奨学金、ロバート・F・ケネディ奨学金、100周年記念外国人留学生奨学金の奨学生、私費外国人留学生授業料免除者、特別研究生に選ばれており、資金的な研究支援等を受けています。また、商学研究科では、研究資料等の効率的なアクセスができるように図書館内に大学院生のための共同研究室（コモンルーム）や大学院生用のロッカールームを設置して、研究の支援をしています。



商学研究科 会計学専攻

会計学専攻 専任教員インタビュー

日本大学 大学院 商学研究科 会計学専攻 教授 **新江孝**先生

—日本大学商学研究科会計学専攻で担当されている科目は？

私は、博士前期課程の管理会計論特殊講義(I)A・B、博士後期課程の管理会計論特殊研究を担当しています。



—博士前期課程で指導される際に、先生が心がけていることは？

博士前期課程では、研究テーマについて修士論文を完成させることが目標となります。研究テーマは大学院生によって異なるので、個人個人に合わせた指導をしなければなりませんし、そのように心がけています。私が研究したことのないテーマを大学院生が選ぶこともあります。これを好機と捉え、希望するテーマについて一緒に勉強します。大学院生から良い刺激を受けています。

—留学生の日本語能力が十分でないこともありますが、実際に指導されていかがですか？

研究テーマという共通の基盤の上で会話しているので、意思疎通が難しく感じたことはまったくありません。日本語の文章がおかしいこともありますが、指導の上細かく確認、修正していますので、完成した修士論文ではほぼ完璧な日本語です。驚かされるのは、留学生の理解力の高さです。私が伝えたことを瞬時に理解し、それを応用することもできています。そのような理解力の高い留学生をこれからもぜひ指導したいと考えています。

—先生が指導された大学院生（留学生）の修了後の進路は？

博士前期課程修了後、博士後期課程に進んだ方のうち1名は留学生でした。留学生のほとんどは、就職しています。母国で就職した方もいますし、日本で就職した修了生もいます。日本で就職した方の就職先には、中国語等の外国語を話せる人材を求めている税理士法人もあります。

—会計学専攻への入学を考えている学生たちへのメッセージをお願いします。

大学院生の目標達成に向け、一人ひとりに寄り添いながら丁寧な指導を行っています。ぜひ日本大学商学研究科会計学専攻に学びに来てください。





商学研究科 会計学専攻

会計学専攻 修了生の声

日本大学大学院 商学研究科 博士後期課程 会計学専攻 修了後 博士（商学）取得
嘉義大学（国立）企業管理学科・大学院 元教授 **陳碧秀** 先生

私は、台湾の成功大会計学科卒業後に、台湾企業に経理・財務の担当者として入社、財務課長に昇格できました。しかし、自分の視野を広げ、日本の文化と会計学の学修を深めたいと思うに至り、地理的、経済的及び文化的にも台湾と密接な関係にある日本を留学先を選びました。



日本大学大学院商学研究科は、先進的な研究を推進できる研究者を養成するだけでなく、高度な専門的知識を身に付けた会計専門職を養成するために、総合的な教育カリキュラム、実績のある教員の指導、恵まれた教育施設が整えられています。私は、日本大学大学院商学研究科で、理論と実務を効果的、効率的に学修することができることを知り、博士前期課程に入学し、会計学専攻を選択しました。

1985年に修士（商学）を取得した後、日本企業で会計実務を担当しましたが、さらに会計学の研究を極めたい思い、日本大学大学院商学研究科に再入学し、会計学専攻 博士後期課程で学修を再開しました。1995年に博士（商学）を取得することができ、同年に台湾へ帰国、大学教員として採用されました。大学院時代における研究、日常生活、先生や友人との関係はすべて良好でした。私の理論と実務を教育に統合できる能力だけではなく、バンキング・ファイナンス学科科長や継続・普及教育部部長を兼務する能力は、日本大学大学院商学研究科での学修と研究の賜物（成果）であると、確信しています。

会計学専攻 博士論文・修士論文テーマ例

博士論文

- 「資産再評価の研究～日本と中華民国における資産再評価の比較～」
- 「パートナーシップ課税制度に関する研究～日米韓の比較検討～」
- 「減損会計の構造と機能に関する研究～理論的考察および実態分析を中心として～」

修士論文

- 「ホテル業の管理会計に関する研究—経営管理と管理会計手法の関係性について—」
- 「コロナ禍における自動車メーカーの企業分析と今後の展望—リーマンショックとコロナ禍の二つの不況期の比較を踏まえて—」
- 「バリューチェーンに関する中国企業と日本企業の比較分析—価値創造に対する会計的側面からの検討—」
- 「中国の鉄鋼業における業績管理の方法—『邯鄲鉄鋼』の業績管理について—」
- 「日本の医療機関におけるバランスト・スコアカードの導入に関する研究—医療バランスト・スコアカード導入に影響する要因分析を中心に—」
- 「BSCにおけるコミュニケーション概念の再検討」
- 「IFRSとのコンバージェンスによる中国会計基準の方向性の検討—国家資本主義と財務情報の開示—」
- 「わが国における包括的収益認識基準設定に関する研究」
- 「中国における不動産取引の現状と税制に関する研究—『房産税』の改革を中心として—」
- 「内部統制と企業不正—企業不正事例を踏まえた統制環境とガバナンスの重要性—」
- 「原価企画に関する—考察—パートナー関係の視点から—」
- 「アメーバ経営に関する研究—日本航空（JAL）の再建を中心に—」
- 「中小企業会計に関する研究—中小企業会計の存在意義とそのあり方を探究して—」



商学研究科 会計学専攻

会計学専攻 演習担当教員の紹介 PART1

いちかわのりこ 市川 紀子	職名・学位等	教授、博士（経済学）、日本会計教育学会理事、財務会計研究学会副会長、日本簿記学会学会賞受賞
	指導可能な領域	財務会計論
	担当授業	財務会計論特殊講義(I)A・B、財務会計論特殊研究
	メッセージ	テーマに沿った先行研究を綿密に調査しながら、研究を通じて明らかにしたい問いを設定し、エビデンスに基づく論理的な展開を論文作成では目指しましょう。
おの まさよし 小野 正芳	職名・学位等	教授、博士（経済学）、日本簿記学会学会賞受賞
	指導可能な領域	財務会計論（特に利益概念論）、簿記論（特に会計における簿記の役割）、非営利組織会計論（特に計算構造論）
	担当授業	財務会計論特殊講義(II)A・B、財務会計論特殊研究
	メッセージ	会計の情報提供機能がクローズアップされている現代ですが、測定・計算構造がしっかりしていなければ提供できる情報の質を担保できません。測定・計算構造の研究を楽しくやっていきましょう！
このの たく 紺野 卓	職名・学位等	教授、法学博士
	指導可能な領域	会計監査論（企業監査、非営利組織監査）
	担当授業	監査論特殊講義(I)A・B、監査論特殊研究
	メッセージ	会計監査論を研究することで企業が作成する財務情報の信頼性を確保する手段を学ぶことができます。また、近年は、企業監査の考えを非営利組織に拡大して適用するケースも増えているため、非営利組織にかかる監査の概念も研究対象としています。
せきや ひろゆき 関谷 浩行	職名・学位等	教授、博士（経営学）、日本管理会計学会理事、全国自治体病院協議会事務部会 中小病院の経営を考える事務プロジェクトチームアドバイザー
	指導可能な領域	地方公営企業の原価計算・管理会計、インタンジブルズ管理会計
	担当授業	原価計算論特殊講義（I）A・B
	メッセージ	現場の実務と学問のあいだに橋を架ける、そんな研究を目指しています。
たむら やそかず 田村 八十二	職名・学位等	教授、会計理論学会理事、特定非営利活動法人アジア環境・エネルギー研究機構理事
	指導可能な領域	財務諸表分析論（経営分析論、企業分析論）
	担当授業	財務諸表分析論特殊講義A・B
	メッセージ	財務諸表分析論ないし経営分析論を研究することにより企業すなわち個別資本の実態を析出することができます。

名前の部分をクリックすると、researchmapで略歴・主な業績を参照できます。



商学研究科 会計学専攻

会計学専攻 演習担当教員の紹介 PART2

はやし けんじ 林 健治	職名・学位等	教授、博士（会計学）、国際会計研究学会学会賞受賞
	指導可能な領域	日本・アジア・IFRS・米国・欧州の会計基準の国際比較、会計制度の類型化、会計制度設計に関する研究
	担当授業	国際会計論特殊講義A・B、財務会計論特殊研究
	メッセージ	税理士試験会計科目免除、研究者志望、社会人の学び直し等多様なニーズに応じます。
むらい ひでき 村井 秀樹	職名・学位等	教授、環境経営学会副会長、経済産業省「グリーンエネルギーCO2削減相当量認証制度」委員
	指導可能な領域	財務会計、環境会計、排出権取引の経営・会計、原発・再生可能エネルギーの会計、サステナビリティ会計、ESG金融
	担当授業	財務会計論特殊講義(Ⅱ)A・B
	メッセージ	企業のためだけではなく、私たちの社会を幸せにするような研究と一緒にしませんか？
まるおか えりこ 丸岡 恵梨子	職名・学位等	准教授、博士（会計学）
	指導可能な領域	簿記論、財務会計論
	担当授業	簿記論特殊講義(Ⅰ)A・B
	メッセージ	利益概念や利益計算構造に関する研究をしています。興味のある方は、一緒に研究をしていきましょう。
よしだ たけし 吉田 武史	職名・学位等	教授、博士（商学）、会計理論学会奨励賞受賞
	指導可能な領域	イスラム会計(Shari'ah会計、Mudarabah、Musharaka、Murabaha、Istisna、Ijara、sukukuやtakafulといったイスラム金融商品の会計、Zakatの会計やAAOIFIのFASなど)、財務会計論(特に資産評価、利益概念)
	担当授業	制度会計論特殊講義(Ⅱ)A・B、財務会計論特殊研究
	メッセージ	大学院で、何を、なぜ研究するのかという問題意識を明確にし、真摯な態度で、継続的に研究する方を望みます。
りゅう むほ 劉 慕和	職名・学位等	教授、経営学博士
	指導可能な領域	原価計算・管理会計
	担当授業	原価計算論特殊講義(Ⅱ)A・B、原価計算論特殊研究
	メッセージ	教学相長の精神を大事にします。
りん とくじゅん 林 徳順	職名・学位等	准教授、博士（商学）
	指導可能な領域	税務会計、国際課税
	担当授業	税務会計論特殊講義(Ⅱ)A・B
	メッセージ	企業の課税所得算定構造に内在する問題を明らかにし、その解決策を探る研究に取り組んでいます。

名前の部分をクリックすると、researchmapで略歴・主な業績を参照できます。



商学研究科 会計学専攻

会計学専攻 演習担当教員の紹介 PART3

あらえたかし 新江 孝 インタビュー掲載	職名・学位等	教授、博士（経営学）、日本原価計算研究学会理事、日本管理会計学会監事
	指導可能な領域	経営戦略のための管理会計、製造業の業績管理システム、サービス業のマネジメント・コントロール、医療機関のバランスト・スコアカード等
	担当授業	管理会計論特殊講義(I)A・B、管理会計論特殊研究
	メッセージ	受講生の研究テーマに応じて、柔軟に研究指導を行っています。

[名前の部分](#)をクリックすると、researchmapで略歴・主な業績を参照できます。